



二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
令和7年3月31日発行
(第128号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広常吉先生書



卒業を祝す



父母会長
藤井由紀子

卒業生の皆さん、そして父母会会員の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆さんが高校二年生の一月にコロナ禍に入りましたね。大学へ入学した一年目の授業は、リモートで行われ不安な気持ちを持ったままのスタートだったことと思います。二年生からは対面での授業が行われるようになり本格的な大学生活が始まりました。

三年生に入ると、一年生二年生が皆さんの背中を見て、大学生活に励まれたことと思います。

そして、いよいよ次のステージのために考え新しい将来のためのチャレンジをしましたね。四年間本当に良く頑張りました。

コロナ禍では、先生方に授業の工夫をして頂きました。また、職員の皆様には温かいご支援を頂けたことを

心より感謝申し上げます。
どうもありがとうございました。

「己ヲ修メ人ヲ治メ、一世二有用ナル人物ヲ養成ス」この二松学舎大学の建学の精神のもと、皆さんは、先生方や学友と共に切磋琢磨されたことでしょ

う。これから次のステージに立った時に、いつも己の心を静かに観て下さい。心には様々な思いが浮かび流れていきます。自分の心を「慈愛のこもった眼」で見つめてください。辛かったときには、「辛かったね。」と自分の気持ちを認めて大切にしていけると、その辛い思いは、小さくなっていきます。そして人に対しても「裁かず」に優しい目で見つめてあげてください。

過去を憂えず、未来に大きい不安を抱かず、「今この時」を味わい大切にしてください。目には見えないけれどもあなたを見守っている存在があることを忘れずにいてください。

最後になりましたが、今年度も会員の皆様には、父母会活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございました。また教職員の皆様には、学生一人一人を大切にお導き頂きましたことを心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、秋の創縁祭にはぜひ同窓生の集まりである松苓会のお部屋にいらしてください。

そして父母会喫茶室にも顔を出してください。父母会一同、皆様のご多幸を心よりお祈りしてお待ちしております。

不確実な時代の先駆者となれ

学校法人二松学舎 理事長 水戸英則



この度、
大学・大学院での学びを終え、新たな門出を迎えられた

皆さんを心より祝福いたします。
皆さんの学生生活は、コロナ禍という困難な状況下でのスタートとなりましたが、強い意志と忍耐力で勉学に励み、この日を迎えられました。

た。この経験は、変化への適応力や困難を乗り越える精神力を身につける糧となり、仲間との絆の大切さを教えてくれたのではないかと思います。

さて、皆さんがこれから出て行く社会は、経済のグローバル化とデジタル化、生成AIなどのテクノロジーの急速な進展により、大きな変化を迎えています。気候変動問題は深刻さを増し、政治経済面においても

複合的な課題が山積しています。世界は不確実性を増し、大変革期を迎えているといえるでしょう。

このような時代に、皆さんにお伝えしたいことが二点あります。

一点目は、変化を力に変える「二つの翼」、レジリエンスとアントレプレナーシップです。レジリエンスとは困難を乗り越える力、アントレプレナーシップとは新しい価値を創造する力です。例えば、AIを導入した様々な仕事の改善や地域課題への取り組み等は、現状を脱却する挑戦と成長を意味します。そしてそれは、皆さん自身の成長にも繋がるはずです。失敗を恐れず、常に挑戦し

続けてください。

二点目は、社会への貢献です。現代社会は、環境問題、貧困や格差、AI倫理など、多くの課題に直面しており、解決には、一人ひとりの行動が不可欠です。具体的には、環境問題には再生可能エネルギーの活用や倫理的な消費行動、AI倫理には正しい情報の把握と発信、議論の深化などがあげられます。

大学や大学院で培った知識、経験、倫理観を指針にした皆さんの若い力と柔軟な発想が、社会を変革する原動力となります。皆さんが、この不確実な時代の先駆者となることを心より祈念いたします。

卒業生の皆様へ

学長 佐藤 晋



みなさん、
ご卒業おめでとうございます。
今後はそれぞれが選んだ

先で活躍されると思います。明治十年に創立された本学は令和九年に創立一五〇周年を迎え、その十月には記念式典の開催を予定しています。みなさん、母校となる本学の記

念すべき周年に合わせて二年半後の自分がどうなっていたいかをイメージして、そこに向けてやるべきことを列挙して、日々のスケジュールに落とし込んでいって実践してみているかがでしょうか。一步一步は小さくても一つずつ達成していく達成感と、中期的に目標を実現したことによる成功体験は、自己効力を向上させてくれ、みなさんの自信につながっていくでしょう。

とはいえ、新生活を迎えるにあたって大きな期待とともにさまざまな不安を抱えておられるのではないかと思います。しかし、まだ経験したことのない将来に不安を感じるのとは自然なことで、不安があるからこそ将来の出来事を警戒して対策を重ねることになり、結果として満足のいく成果が手に入ることになるわけです。逆に、不安も恐怖も何も感じないと言うのは、前から突っ込んでくるトラックにも全く恐怖を抱かないようなもので、その先には痛い結末が待っていることでしょう。逆に不安の対象となる物事に対してきっちり準備することです。うまく対応でき

たとしたら、それは不安感を正しく利用できたということになります。このように不安や恐れなどといった、一見自分に都合の悪いような感情も、実は人間が生きる上で必要不可欠なものであり、うまく対処すれば生きる上で力となります。そもそも物事を失敗できない、うまくやりたいという欲望が強ければ強いほど、不安や恐怖も強まってくることから、様々な感情は人間が生きるための助けとして備わっているものということがわかるでしょう。自分の感情との付き合い方を早く身につけて、これからの人生を歩んでいかれることを願っています。

贈る言葉

文学部長 江藤 茂博



二松学舎
大学文学部
を卒業され
る皆様、お
めでとうございます。

これから予測できにくい社会の大
きな変動の中、ご自身で道を切り開
いていくことになります。そこにこ
そ生きる妙味というものがあるのか
もしれません。他の誰とも同じでは

ない、君たちそれぞれの歩みという
ものを、これからしっかりと重ねて
いかれることでしょう。そこには、
各人各様の迷いや苦しみが待ち受け
ているかもしれません。そして上手
くいくこともあれば、当然失敗する
こともあるでしょう。

どんな小さなことでも迷い苦しむ
ことは、その当事者にとっては、と
てもつらい試練のようなものだと思
います。ただ、いつかは、それらが

どうでもいいことのように思える時
がやってくる筈だと信じ、乗り越え
てください。あるいは、もっと力強
く、正しさというものを信じて戦い
続けてください。

たとえば「論語」の中心をなす価
値を示す言葉に、「忠恕」がありま
す。弟子の曾子との問答のなかで、
孔子が貫いてきたこととして記され
ていました。これは、人としての誠
実さや思いやりの大切さを示すもの
で、これこそ人が正しい道を歩むた
めの価値の有り方だということです。
そうであっても、これからの君た
ちの歩みのなかで、誠実さや思いや
りから遠くなることを強いられるか

もしもありません。ただ、漢学を精神的
な背景とした学び舎で、青春期を過
ごされた君たちは、すでにこの「忠
恕」を手に入れたかもしれません。
そうであるならば、この混沌とした
社会の中で、君たちの人生の歩み
は、どんなことがあつたとしても、
輝いていることでしょう。「論語」
でいう、君子の生き方です。

もちろん、人それぞれの価値の有
り方そして持ち様はさまざまです。
それでも、二松学舎の文学部をご卒
業される皆さんには、この学び舎に
遠く響く「忠恕」という言葉を、私
は贈りたいと考えました。良き一歩
をここから踏み出してください。

AI時代に向かっていく卒業生のみなさまへ

国際政治経済学部長 高岸 直樹



ご卒業お
めでとうございます。
社会人とな
る方、さら
に研究の道

に進まれる方など、進路はさまざま
ですが、多くの挑戦すべきことがみ
なさんを待ち構えています。
対話型AIの「ChatGPT」が公開
されて二年、みなさんはAIを身近

に感じた最初の世代といつてよいで
しょう。過去に、ロボットが開発さ
れ、工場を始めとして広く社会で省
力化が進んだように、これからの世
界はAIを活用して、より豊かに成
長していくことになるでしょう。

しかし、ロボットに仕事を委ねた
ように、AIに多くの仕事を委ねる
世界ともなります。みなさんは、A
Iを使う存在であつて、AIに使わ
れる存在ではないことを、まずは自

覚する必要があります。身近になつ
た対話型AIでも、間違つた情報を
学習したAIは、当然に間違つた解
答を導き出します。生成された解答
が正しいものなのか、見抜く力が必
要です。本学で、みなさんは、専門
分野はもちろん、その周辺分野も学
び、研究し、この見抜く力を身に付
けました。

AIの発明に特許権を与えるべき
否か、世界で論争が起きています。
発明したのはAIなのか、AIを使
った人間なのか。この特許権の帰属
はさておき、AIが発明する時代が
到来したことも確かです。しかし、
そのAIを使いこなすのは、人間で

す。みなさんは、教職員、友人、先
輩後輩とのキャンパス生活のなか
で、広い視野を持ち、さまざまな意
見をもとに、自分で課題を見つけ、
オリジナリティある解決策を考え、
展開してきました。ここでは、因果
関係を見出して推測する力、過去に
はなかつたものを創造する力を身に
付けました。これらは「過去を学習
したAI」を使いこなす原動力にな
るのです。

ぜひみなさんには、さらに研鑽と
経験を積み、本学で学んだこれらの
力を伸ばし、社会で活躍していただ
きたいと思います。

国文学科・中国文学科・都市文化デザイン学科・歴史文化学科・
教職課程の先生方から饒の言葉を頂きました。

笑門来福

中川 桂

本当にやりたいことを
思う存分楽しんで下さい。
信頼しています。塩田 富子

みなさんには

未来しかありません

未来へ
福島 一浩



福島 一浩

文学とは生くることをいふ強さ

言葉を思ふ 一人なら時

(鳥歩)

長谷川 豊輝

他人の意見で自分の本当の
心の声を消してはならない
—ステイプジョブズの言葉—

関 俊史

Keep Smiling
自分を信じて♡
奥川 育子

自分の人生を自分で変えていくタイプの人たちがいる。他の人
ならまず思いつかない困難な選択を素直に決めてしまい、
その結果に最大限の責任を負う人たち。そのためにどんな行路
をたどろうと、もう周囲を驚かせない人たち。
(ハン・ガン 『別れを告げない』) 清龍田 浩

公開行事などの折を利用して
ぜひまた母校にいらして
下さい。

五月女 肇志

社会での御活躍を大いに申し上げます。
吉井 雄哉

求めよ、さらば与えられん。

尋ねよ、さらば見出さん。

門を叩け、さらば開かれん。(聖書)

麻生 将

人間はすべての物事の尺度である。

—プロタゴラス—

時間をかけて、でも着実に。

和久 希

「それはもはや別の物語り、

新しい別の物語りでなければ

ならない。」(大西巨人『神聖喜劇』)

山口 直孝

沈思黙考

堀野 正人

国際政治経済学部 国際政治経済学科・国際経営学科の先生方から 餞の言葉を頂きました。

楽しむことを忘れずに。

これからのご活躍を期待しています。

須藤 和敬

ご卒業 おめでとうございます。

菊地 宏樹

日常の何気ない営みを丁寧に

押野 洋

努力は

人を裏切らない。

白石 まりも

ご卒業おめでとうございます。

人脈も広げて財産にしましょう。

健康第一です！

阿部 和美

一步一步大切に歩んで下さい。

皆さんのご多幸をお祈りしております。

戸辺 玲子

御卒業おめでとうございます。

これからのご活躍を

心よりお祈り申し上げます。

関沢 修子

御卒業おめでとうございます。

小沢 辰哉

ご卒業お祝い申し上げます。

目標は小さく、ハートには大きく

手賀 裕輔

自分が将来やりたい姿をイメージして、日々やるべきことを設定して努力して下さい。

佐藤 晋

おめでとうございます。

これからがんばってください。

吉田 裕也

ご卒業おめでとうございます。

日々、自分のペースで楽しんでください！

大塚 敬子

御卒業、おめでとうございます。

小具 龍史

ご卒業おめでとうございます。

自分を信じて道を切り開いて

幸せな人生を歩んでください

安井 繁宏

御卒業おめでとうございます。

不確実な世でも

楽しく、楽しく

谷 六 強

御卒業おめでとうございます。

他人の目ではなく、自分の心で

好きな道を進んで下さい。

志は高く、歩みは着実に

藤井 宏次



二〇二四年度 卒業式

二〇二五年三月十七日(月) 文京シビックホールにおいて、二〇二四年度二松学舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。

午前十一時、開式宣言に始まり、国歌斉唱(静聴)、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済学・経営学)の学位記が授与されました。各学科の成績優秀者には、中洲賞・優等賞をはじめとした各賞の賞状と記念品が授与され、その後教育職員免許状が伝達されました。

続いて佐藤学長の告示、水戸理事長および平野松苓会長の祝辞、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞と式は進行し、厳粛な空気のまま閉式しました。閉式後は会場内の数箇所に分散し、ひとりずつ学位記を受け取り、式典は滞りなく終了となりました。式典後卒業生たちは、友人たちや先生方と談笑したり記念撮影をしたりと、学生最後の時間を楽しみ様子が見られました。

卒業生の皆さんがこの日の喜びを胸に、社会で活躍されることを心よりお祈りしております。



2024年度 卒業記念パーティー in東京ドームホテル 天空

2025年3月17日(月)、午後2時より東京ドームホテル「天空」において、2024年度卒業記念パーティーが開催されました。パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語らいの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。

祝 卒業



卒業にあたり、新しい人生への希望に満ちた門出に胸ふくらませている学生五名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『桜梅桃李』



国文学科

金丸 明日香

四年前、気恥ずかしさを覚えながら新品のスーツに身を包み、入学式に臨んだ日を昨日のこのように思い出します。憧れていた大学生活もつかの間、気づけば卒業のときを迎えています。

一年次はリモートを中心とした形態で隔週しか登校できず、歯がゆい思いをしました。そんな儚い一年次を経て、二年次に完全対面が叶ったときには、面と向かって人と接することのできる喜びを実感しました。そして続く三年次と四年次ではそれぞれに自身の専攻科目や就職活動等に向き合い、徐々にコロナ禍以前の活気あふれる生活を取り戻すことができました。

この四年間をどう総括しようかと

あれこれ思案した結果、自身の中で大きく変化した点を取り上げることと相成りました。一つは言葉への意識、もう一つは自己肯定感の向上です。順に簡潔に述べたいと思います。

まずは言葉についてです。この世には数多くの言葉がありますが、日本語の美しさや複雑さには母語としながら身に余るものがあります。ただし日常会話ではそのごく一部でコミュニケーションが成り立つために、あまり気に留めることはありませんでした。しかし本学において国文学を学び、様々な意見する機会を通して、置かれた状況に合わせて最適な言葉を選び取って使いたい…そんな思いが生まれました。また「言葉」

と近い単語に「語彙」があります。俗にいう「語彙力」とは単なる知識だけではなく、表現の正確さや会話の円滑さといった活用面も包括した能力を指します。受動的な態度だけでは真に語彙力を身に付けたとは言えません。主体的に使用してこそ言葉は活きるのです。私はこのような考えのもと言葉の取り扱いには人一倍気を遣っているつもりです。

【大切なのは、言葉。】

二松学舎大学に籍を置いた身として、今後も本学のスローガンに見合う人であり続けたいと思っています。

続いて自己肯定感の高まりについてです。私はもともと自分に自信がなく、よく自身を卑下するようなことを口にしていました。学習することと嫌いではなかったものの、周囲の目を気にしていたためにこの気持ち了他者に話すことは控えていました。しかし大学生活のなかで、徐々に本音に従って動ける機会が増えていきました。そしてありのままの私を受け入れてくれる方々に多く出会うことができました。私は本学で日本文化専攻に属しつつ、多忙を極めると理解したうえで教職課程と学芸員課程の両方を履修しました。そして今一步知見を深めたいという志から、大学院進学を決意するに至りました。すべて自分の「学びたい」という素直な気持ちに起因した選択

で、後悔はありません。何よりも私の進路に対したくさんの方々が前向きに捉え、ご支援いただけたことが最大の後押しでした。この四年間を通じて己の意志を貫く強さが身に付きました。今、ようやく心から「人は人で自分は自分である」と思っています。これは私だけに当てはまることではありません。一人ひとりに赫々たる魅力があり、唯一無二の華なのです。今回の寄稿にあたり、以上に記した思いの丈を題目に込めました。

新たな門出に際し、たまゆらのように短い大学生という期間をこの場所ですごすことができてよかったと心から感じています。最後に改めて深謝の意を表すとともに、今後の抱負を述べて稿の締めとさせていただきます。どんなときでも側にいてくれた家族、苦楽を共にした友人をはじめ、関わりましたすべての方々には心より御礼申し上げます。そして先方並びに職員の皆様におかれましては、進学後も引き続きお世話になるかと存じます。今以上に努めていく心持ちですので、どうぞよろしく願います。私はこの卒業を学生生活における大きな節目とし、本学において未来への道筋を新たに創り上げていきたいと思っています。

『淑清を斟む』



中国文学科

篠原 淳之介

私は中国古典を探求したいという一心で二松学舎大学に入学しました。そして私は実に幸せなことに大学生生活の四年間、存分に中国古典の学問世界に身を置くことができました。

私の大学生生活を振り返ってみるに、ゼミナールでの活動は欠くことのできないものです。私は和久先生のゼミナールに参加させていただきましたが、三・四年次に過ごした日々はみずみずしい記憶とともに豊かに思い起こされます。私たちは一つの古典文献をゼミナールのメンバーで順々に読む、すなわち輪読の形式でゼミナールを進行しました。私たち学生はあれこれ知力を尽くして古典文献に立ち向かって行くのですが、これが極めて難しく、しかしながら何とも愉快的作業なのです。古

典を読むこと、これは現代人が現代の文章を読むこととは事情を大きく異にします。一字一句の意義を確定させることや典故を調べるなど、多くの手順を丁寧に踏んで行く必要があります。そうしてようやく文章全体を読む段階になっても、文章そのものの意味を正確かつ妥当的に理解するには膨大な時間を要します。そのため、時には一回のゼミナールの時間でほんの数行しか読み進められないこともありました。それはむしろ喜ぶべきことであり、私たちが文献に対して真摯に向き合い、疑問を追究したことの何よりももの証左なのです。最後は先生が解釈を施してまとめをしてくださるのですが、そのたびに私は非常に多くのことを学び、自身の無理解を痛感することになりました。私が古典文献を目にし

たとき、難解な文字が立ち並ぶさまはさながら険峻な岩山のように厳めしく、無機質に思えました。しかし、先生の解説を通じてあらためて文献を読んでもみると、その内容は実に色彩豊かに、無窮の含蓄に畏敬の念をもよおす一方で、いつの時代であつても変わらない感情の記述に触れて親しみを覚えることもありました。全く感動の一言に尽きます。そして、古典を読むこと、また、しっかりと読めるということがどのようなことなのか、私はここに深切な実感を伴って了解しました。私にとつてこれらのゼミナールでの経験は不朽の宝物です。

思うに、私がゼミナールなどの大学で古典を学んだ経験は、ただの良き思い出として胸奥にしまい込んでおくだけのものではなく、むしろこれから生きるための糧となり得ることを固く信じています。社会は日々目まぐるしいほどに変転し、情報は濁流と押し寄せる現代であるからこそ、古典文献を読む時のように、一步一步を踏みしめるような盤石で明晰な思考の価値は、ますます明らかに認識されることだと私は感じています。

また、私の学生生活は驚嘆の連続でした。私よりもはるかに広大で深

沈なスケールの世界観を持った学友、あるいは、外国語を自在に駆使する学友などと交流を深めることで、私の全く知りえなかった世界の広がりを感じさせられたこともありました。普段の先生方の講義は当然のことですが、学友にも非常にたくさんの方の事を学び、そして何より楽しい日々を過ごすことができました。

さて、瞬く間に四年間が過ぎ去り、この度晴れて卒業させていただく次第となりました。こうしてあらためて振り返ると、喜びと惜別と、さまざまな感情が沸き上がってきました。しかし、ひとえに家族の支援があればこそ、私はこのような経験をすることができました。まずは格別の感謝の思いを伝えたいです。また、私の大学生生活を楽しく充実したものにしてくださった学友と先生方、私に関わってくださったあらゆる方々にも深く感謝申し上げます。卒業を契機にしばしの別れとなり、各人が種々多様の道を歩むことにはなりますが、その道が幸と実りに満ち溢れ、どこまでも安寧であることを祈ります。



『ミチシルベ』



都市文化デザイン学科

宇佐美 果穂

二〇二一年四月、新型コロナウイルスが収束したとはまだまだ言えない中で迎えた入学式でした。オンラインのみで授業を行う大学が多かった当時、二松学舎大学は、一年生の時から隔週で対面授業を受けることができました。そのおかげもあり、学籍番号が私と同じ奇数の人と関わる機会が多く、一年目から友人たちと直接話して仲良くなることができました。

間に卒業の日を迎えてしまいました。寂しい気持ちはありますが、今は無事に卒業できるという嬉しい気持ちで溢れています。

この四年間で私は、伝え方の大切さ、わかりやすく「伝える力」を身につけたと考えています。

一方で、学籍番号が偶数の人とはなかなか会えず、二年生になってようやく「オンラインの時に姿を見ていました！ よろしくお願ひします！」といったように、少し変わった挨拶を交わしたことを今でもはっきり覚えています。

その結果、志望していたのと同じ文学部であるため、元々学びたかった方言はもちろん、その言葉が発達した土地自体の文化や観光について、さらには私が大好きであるアイ

ドルについてといったように幅広く色々な分野の学びを得ることができました。高校までの間で学んだことのない分野がほとんどであったからこそ、都市文化デザイン学科の全員が同じスタート位置で大学における学びを始められたのではないかと思います。

では、どこで差をつけるのか。どこで実力を発揮するのか。プレゼン能力や、レポートでわかりやすくまとめる力であると考えました。

個人発表やグループワークでの発表、またレポートといったように、ただ暗記するだけでなく、覚えたものについてわかりやすく発信することとを求められる授業がとても多いのが都市文化デザイン学科の特徴でした。どんな言葉を選ぶべきか、どんな順序で話すべきか、どんな風に伝えるのか、聞き手側や読み手側の立場になって考えることの大切さを身に染みて感じておりました。

また、「伝える力」は私が大学入学の時から続けている塾講師のアルバイトにも繋がるものでした。小中学生の前で授業をする際、どんな言葉や順序で伝えたらわかってもらえるか、どんな伝え方をすれば授業を楽しんでもらえるかを常に考えていました。大学でのプレゼンを塾の授業

で活かし、逆に塾の授業の経験を大学のプレゼンで活かす、その行動の繰り返しで「伝える力」を私は身につけていきました。

卒業後、私は接客がメインとなる仕事に就きます。現在、事前アルバイトとして実際に店舗で働いているのですが、私の伝え方ひとつでお客様の笑顔が増えたり、売り上げ目標により近づくことができたりすることを実感しています。

正社員になると配属先や業務内容もアルバイトの時とは変わってくるため、四月からまた未知の世界へ飛び込んでいくことになると思います。それでも「伝える力」という大学生のうちに培った大きな力を自身の中の標として、これからも頑張っていきます。

最後に、大学卒業は学生生活の終了という人生の中での大きな節目となります。「教育は財産である」という考えを持ち、私が学びたいことを前向きに受け止め、支えてくれた両親。どんなに些細なことでも親身になって聞いてくれたり、困った時には一番に私を頼ってくれたりした友人。分野を問わず人として成長するきっかけを与えてくださった先生方。これまで関わってくくださった全ての方々へ感謝を申し上げます。

『四年間の記憶』



国際政治経済学科

林 菜々子

記憶は不思議なものです。月日が経てば、楽しかったことは温かい高揚感だけを残し、辛かったことは次第に薄れる。そうしていつの日か「あれも悪くはなかった」と、そう思える日が来るでしょう。

四年生までの学びを通じて、「記憶」に興味を持った私は、卒業論文のテーマに、国家の歴史や、戦争の記憶に関するものを選びました。興味を原動力にして取り掛かる作業は、文献集めも執筆も、全てが面白く感じられました。悲しい事件の事実を追う作業は、胸が詰まる思いでした。やっと推敲を終えた深夜三時ごろ、無事に提出を終えたときの達成感、この先も忘れることはないだろうと思います。

言葉選びに一晩じゅう悩んだり、論じたいことを見失いかけたり、文

献集めにあちこち走り回ったり。順風満帆とは言い難い道のりのなかでも、最後には、ひとつのものを作り上げた。卒業論文の執筆は、私の大学生生活を締めくくるとともに、象徴する出来事でした。

二十一年春、私は入学を機に地元長野県から上京し、一人暮らしを始めました。自分の身の回りのことを淡々とこなせるようになるまで、試行錯誤の毎日でした。梅雨の時期、溜まりに溜まった洗濯ものを前に、頭を抱えたのを覚えています。

私は重い布の塊を背負い、コインランドリーまでのろのろ歩いて向かいました。恐る恐る、初めての道を抜け、東京で迎えた初めての梅雨は、長野よりずっとじめじめとして、暑苦しかった。初めて使う機械

にまごつきつつ、薄暗い外を眺めて、一時間余りぼんやり待ちました。でも、乾燥した洗濯ものを畳んで背負い直した帰り道は、不思議と行きよりもずっと身軽に感じられて、さっぱりとした気分でした。

私たちの世代は、コロナの影響を欠かさずして、大学生活を語ることにはできません。思い描いた理想像の実現は難しく、一年の頃は授業もオンラインでの実施がほとんどでした。それでもできる範囲で、できる限りのことに挑戦しました。制限のなかでも日々を工夫し、楽しみに変えること。これは、この四年間で私が上手になったことのひとつです。思えば、工夫すること、楽しむことの大切さは、父と母がよく口にしていたことでした。

あの日々には、オンライン上だったからこその交流や、苦勞を共有しているからこその理解がありました。確かに、一人で授業を受ける毎日には心細く、途方もなく感じられました。コロナがもたらした暗い影響のなかには、みな人それぞれに、忘れることのできない、辛いものもあるでしょう。もちろん、辛かったことを、辛かったことのままにしておくのも、人それぞれ大切な記憶のあり方です。

今の私はそれらをぐっと飲み込んだ上で、自分の大学四年間は、良いものだったと言いたいと思います。四年間で積み上げてきたことのすべてが、私自身のこれからの人生の教訓となり、自信となり、私を励ましてくれると信じています。

私は、文章を書くのが大好きです。自分で考えて打つ文字のひとつひとつで文章を作るのは、私にとってかけがえのない作業です。文章を書いていた経験や、文章が繋がって来た皆さんの縁が、今の私を作っています。この度は寄稿という貴重な機会をいただいたこと、大変光栄に思っています。心よりお礼申し上げます。

最後になりますが、私を見守り、支えてくれる人たちに、この場を借りて感謝を伝えさせてください。いつも元気をくれる、温かく心強い家族。大切な友人たち。趣味で出会った大好きな仲間たち。今までお世話になった諸先生方。支えてくれる人の存在なくしては、こうして胸を張って卒業を迎えることはできませんでした。これから、どうか応援しててください。もっとよい自分になれるよう、日々を楽しみとともに積み重ねていきたいです。

『贈られた言葉』



国際経営学科

柴田 充

大学生活を支えてくださった父母会員の皆様はこの場をお借りして感謝申し上げます。何よりも無事に卒業を迎えられたこと、大変うれしく思います。この四年間の感想は、非常に充実していたという言葉に集約されます。

せっかく頂いた機会ですからもう少し細かく振り返りますと、そもそも大学に行こうと考えたのは小学生の時にあると思い出しました。小学校の時に「好きな勉強だけしたいです」と先生になんとなく言ったのです。その時、怒られずに「大学に行く」と好きな勉強ができるよ」という言葉を頂いて、それが強く印象に残り「好きな勉強ができるなら大学生になるぞ」と単純に意気込みました。ところが、中学高校の六年間で勉強自体嫌いになってしまい、見事

に大学に進む理由を失いました。現代文が得意であった一方で、英語が苦手嫌いでした。それでも得意な現代文を活かし二松学舎大学に進みます。

こうして迎えた一年次は「大学受験は大きな山だがもっと大きな山がある」という祖父からもらった叱咤激励の言葉をふと思い出して、勉強嫌いでありながら教養科目や必修科目の英語などを必死に履修し単位を得ることができました。私にとっては非常に重たい言葉でした。というのも、祖父がパイロットとして先の大戦に向かったのが大学生の私と同じくらいの年齢であったため、勉強できる幸せについて何度も説いてくれていたからです。

二年次は、後にキャリアセンターと英語の授業で大変お世話になる稲

垣美沙子先生に春先に言われた「最近IT業界に行く人が多いけれどIT業界に行く人はずっと勉強しないといけないからよく考えて」という言葉が突き刺さって、勉強嫌いの私はIT業界だけは絶対にないなと思いました。

ところが、この二年次の夏頃から英語の授業が楽しくなり、勉強する大学生になるぞ」と意気込んだのを覚えています。その上で、この頃から祖父の法事で親戚に正月以外に会うことも増えました。その際に、IT業界で働いている親戚から色んな言葉を受けて、大学でもITの授業をとって勉強を試みたところ意外と楽しかったのです。そのまま三年次、四年次と好きな勉強をしていました。それでよくよく考えていたら、勉強嫌いではないことに気づきました。結局のところ、小学生のときと変わらず好きな勉強するのが好きだったのです。ただこの四年間で変わったこともあります。授業ももちろん楽しいのですが、自分で勉強するのが楽しくなりました。この再発見と成長は、専攻である経営学に関する学問だけではなく英語やITにも見識を深めることのできる大学の特徴的なカリキュラムと能動的な学習に導いてくださる先生方のおか

げです。この大学で良かったなと心から思います。

こうして振り返るとやはり非常に充実した四年間でした。この四年間はパイロットのように大きな山を越えることができたような気がします。しかし、こうした日々を過ごせたのはひとえに周囲の人々の支えのおかげです。まず大学生活をサポートしてくださった先生方、学友たち、大学関係の方々、そして家族に心より感謝申し上げます。そして何より、これらの日々は私が所属するゼミの今井悠人先生の支えによるものです。いつでも私の未熟な質問に優しく答えてくださり、まさに私のお手本となるような先生でした。あらためて感謝申し上げます。

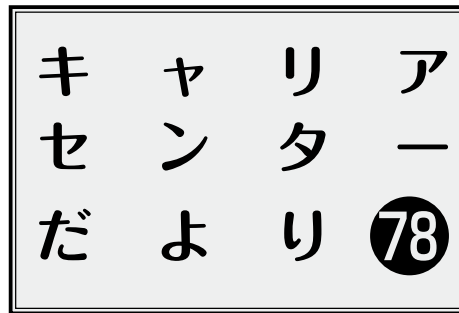
私も晴れて卒業を迎えまして、来年度は社会人になります。英語とITの勉強が好きであることをアピールしてなんとなくIT業界に就職しました。小学生の時に夢描いていたよりもはるかに未熟な状態で社会人になります。が覚悟はできたので、もう卒業の時期かなと思います。楽しいことばかりではないと思います、それでも私もいつの日か我が母校二松学舎大学に恩返しできるよう日々精進して参ります。

●就活の軸となる自己分析

就活は、自己分析が重要です。私の就活は自己分析に始まり、自己分析で終わったと言っても過言ではありません。企業から不採用通知が届く度に、自己分析を繰り返ししながら自分の軸を定めてきました。

私の世代は、大学に入るためには浪人するのは当たり前だと言われていました。当時は、やりたいことよりも難易度が優先されるような風潮があったので、私もそのような選び方をしました。就活は氷河期でしたが、今度はやりたいことが重視されるような風潮があったので、それが無かった私は悩み続けました。

自己分析をしてこなかった結果です。同級生は就職難と自己分析が不十分なことも重なり、安易に派遣社員やフリーターに流れていき、五十歳を過ぎてもその環境から抜け出せない人もいます。就活での自己分析は、将来に影響を及ぼすほど重要なことなのです。それでは、なぜ就活での自己分析が重要なのでしょうか。



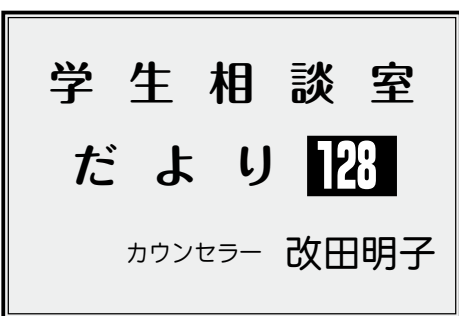
簡単に言えば、自己分析の延長線上に就活があるからです。自己分析をしなければ、自分がどんな仕事に向いていて、何がやりたいのかが見えてきません。つまり、自分の就活の軸が定まらないため、職業が選べなくなるのです。また、自己分析は等身大と理想の自分とのギャップにも気づくことができます。例えば、

商社が理想だけれど語学や営業が苦手ならば、入社後のミスマッチにつながります。等身大の自分が理解できなかった将来設計にも目が向けられ、理想の自分に近づくための道筋も描くことができます。

保護者の皆様が学生

に就活のことを聞くときは「自己分析している？」と声をかけた方が、会話が弾むかもしれません。その際に保護者の皆様が自己分析の一環として他己分析をしてあげれば、学生も様々な気づきが得られると思います。私も他己分析をしてもらい、意外な自分の強みに気づくことができました。それが就活の軸にもなりました。

学生相談室は、よろず相談室です。相談室を訪れる学生の典型的なイメージは、繊細で自分のことを思い悩む姿かもしれません。ところが、近年はちよつと異なる状況に触れる機会が増えているように感じます。それは、ご本人の苦悩が、明らかに生活環境に起因すると思えるような姿です。よくぞこれまでこの環境を生き抜いてきたと、言葉を失うこともあります。



クスを得ることは難しくなりま

す。学生相談室では、そのような環境を生き抜いてきた人が、自分なりの人生を先に進めるための苦悩に伴走します。過剰とも思える管理にどのように抵抗し、自由な領域を広げるか。環境と折り合える点を模索しながら、自分のことを自分で決める力が育つてゆきます。周囲の環境は、その人の中に育ちつつある自由の感覚に見合った決定権を渡しながら譲り渡してゆくことで、新たなバランスが生まれます。それは、たとえば親御さんであれば、子どもが自分の思い通りにならないことを受け入れるということです。

しょう。

そのような環境を生きる学生には、絶対に大丈夫、どうにかなるよという思いが届くように、伴走したいものです。世界には多様な苦悩が溢れています。人の力が及ぶごくわずかな領域には誰もが希望を感じることができ

ますように、と。

2024年度 学生褒賞

区分	学年	氏名	主催	大会名	受賞内容
個人	4	工藤 芙己	第67回短歌研究新人賞	短歌研究社	新人賞
	4	小川 春希	全日本書道教育協会	大学生書道展、第108回書教展	中国大使館賞
	3	松尾 空	全日本書道教育協会	第108回 書教展	読売新聞社賞
	3	吉田 もえ	桂福丸（落語家）	第一回桂福丸杯 （大学生を対象とした落語の大会）	金賞
			第22回全日本学生落語選手権策伝大賞	岐阜市、岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会、NHK岐阜放送局	岐阜市長賞
	3	菊池 大基	全日本書道教育協会	第108回書教展	文部科学大臣賞
	3	綿貫 乃愛	全日本書道教育協会	書教展	審査委員長賞
			毎日書道会	毎日書道展	新鋭賞
			毎日書道会	毎日書道展	入選
			創玄書道会	創玄展	二科賞
			創玄書道会	創玄展	入選
	3	吉野 和真	葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール実行委員会	第10回 葛飾柴又帝釈天全国書道コンクール	葛飾区教育委員長賞
			全日本書道教育協会	第108回書教展	審査委員長賞
	3	夏秋 富蔵	K-1実行委員会	K-1カレッジ2024 ～大学生日本一決定トーナメント～	準優勝
	2	渡邊 歩美	全日本かるた協会	2025年小倉百人一首競技かるた 新春全国大会	D級3位入賞
	2	君塚 風桜	東京吉野会	第四十二回全国かるた吉野会大会	D級4位
	2	岡本 桂悟	杉並かるた会主催、全日本かるた協会公認	第1回全国競技かるた杉並大会	B級優勝
			全国大学かるた連盟 主催 全日本かるた協会 公認	第95回全国競技かるた学生選手権大会	A級4位
	1	戸辺 旺輝	東京都かるた協会	第32回東京都かるた大会	E級3位
	1	山内 望愛	主催：東京都かるた協会 （後援：全日本かるた協会）	第32回東京都かるた大会	E級準優勝
区分	団体名	氏名	主催	大会名	受賞内容
団体	書道部	代表：吉野和真	全日本書道教育協会	第108回書教展	団体奨励賞
	小具龍史 ゼミナール （3年生）	石井雄一朗、上村俊斗、 周錦怡、三原宏陽	藤田観光（株）	藤田観光ビジネスコンテスト2024	最優秀賞（1位）

☆学生支援課からのお知らせ☆

国の修学支援新制度（多子世帯支援）拡充について

平素より本学の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2025年度より、国の修学支援新制度において多子世帯（扶養する子どもが3人以上いる世帯）への支援が拡充されます。

※多子世帯の場合、所得制限なく年間70万円を上限とする授業料減免が受けられます。

本学では、本制度について、2025年4月8日（火）より新規申請を受け付けます。

制度の詳細等についてはリンク情報等をご確認いただき、該当する世帯の方は申請をご検討ください。

※すでに国の修学支援新制度を利用している学生については、日本学生支援機構が所得情報等をもとに多子世帯判定を行います。

認定された方へはNisho UNIPAを通じて個別にお知らせいたします。

関連リンク

○奨学金に関する詳しい情報は右のQRコードをご参考ください。

（またはGoogle等の検索エンジンで、「日本学生支援機構 給付奨学金」のキーワード検索からでもご覧いただけます。）



○多子世帯への授業料等無償化に係るFAQは右のQRコードをご参考ください。



☆教務課からのお知らせ☆

学生支援システム(旧 Live Campus 保護者ポータル)の変更について

これまでご利用いただいていた「Live Campus 保護者ポータル」は、2025年3月22日(土)をもってサービスを終了いたしました。後継システムである「NishoUNIPA」は、現在、学生の皆様向けに稼働しております。保証人の皆様には、6月頃のサービス提供開始を予定しております。今回のリニューアルに伴い、URLおよびログイン方法が変更となります。詳細は、準備が整い次第、父母会ホームページにてご案内いたします。利用開始まで少しお時間を頂きますが、何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



■ お問い合わせ先：教務課 kyougaku@nishogakusha-u.ac.jp 03-3261-7406 (平日9:00—16:30)

☆父母会からのお知らせ☆

父母会では、学生がより充実した学校生活を送れるように支援をしています。

その一環として、今春から、印刷機の拡充と生理用ナプキン提供の導入を開始いたします。多くの学生に利用いただき、学修に励んでもらえることを願っています。

今後も多方面で支援を行っていききたいと存じますので、皆様のご理解・ご支援の程、宜しくお願い致します。



① 3号館と4号館でも印刷できます！

現在、1号館のみで利用可能な印刷システムを、大学の協力により、3号館と4号館にも設置します。2025年4月中の運用開始を目指しています。

② 女子学生の衛生環境向上に向けて！

一部の女性用トイレに、生理用ナプキンを無料提供するシステムの導入を進めています。2025年5月中の運用開始を目指しています。



四年生の皆様、保護者の皆様、二松学舎大学ご卒業誠にありがとうございます。

二〇二〇年一月に国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから今までの日常が一変してしまいました。その後、コロナ禍を経て二〇二三年五月に五類感染症となりましたが現在でも、型を変えながら我々の生活に影響を落とし続けています。学校という集団生活の中で学習等の対面活動に制限を受ける中、教職員の皆様と工夫し乗り越えられて来た学生の皆様と、支えて来られたご家族の皆様においては、感慨深い事と拝察いたします。

メジャーリーグで活躍されている大谷翔平選手の言葉で「自分がここで(野球に)集中出来るのは、支えてくれている人達が沢山いるからでその事に感謝している。」という言葉があります。人は一人では生きてはいけません。中々、思うように物事が進まないことも多々あると思いますが、辛抱強く取り組み、謙虚な気持ち、感謝する気持ちを忘れずに様々な事に挑戦し取り組み続けて頂きたいです。そして、この四年間の学生生活で培った経験を糧に、これからの人生が更に充実したものとなりますよう皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

二〇二五年度もどうぞよろしく
お願い申し上げます。